

北村賞

北村賞は、我が国における公園緑地行政のパイオニアとして、長年、公園緑地に関する理論の研究と行政実務の指導に尽くされ、また日本公園緑地協会の実質的創設者として協会の育成と発展に大きく貢献された北村徳太郎先生の業績を記念し、設けられました。この賞は、北村先生が昭和39年5月8日にご逝去されたあと、昭和43年3月、社団法人日本公園緑地協会において「北村賞及び同基金に関する規程」及び「北村賞実施要領」を定め、公園緑地等の行政または調査、研究、計画、設計、管理・運営の理論等に全国的視点から著しい功績のあった方に贈呈するものです。

第47回北村賞受賞者（敬称略・五十音順）

かたやま ひろあき

片山 博昭

元 京都市動物園長

現 公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会専務理事

受賞理由

氏は、京都市に造園技術職として採用後、明るく前向きなリーダーシップを発揮し、公園緑地行政を牽引した。これまでに、緑の基本計画をはじめとした各種行政計画の策定、新規施策の立案を行ってきた。平成23年度の地方分権一括法に伴う都市公園条例の改正に当たっては、低層高密度の市街地を有する本市の特殊性から、参酌のための有識者会議を設立して議論をリードし、公園の未来像をとりまとめたうえで、5,000㎡以上の都市公園において建蔽率を2%から4%に改定し、公園の存在価値の向上や利活用の促進につなげた。また、街路樹の育成管理に関する様々な施策を立案し、豊かな緑陰の街並みを目指す道路の森づくり、沿道美化に取り組む活動支援の街路樹サポーター制度、紅葉前に枝葉を半減、紅葉後に基本剪定を行う景観と落ち葉対策を両立する京都市型景観剪定を導入した。このように、京都市の骨格となる緑の政策推進において中心的役割を担ってきた功績は大変大きい。

こばやし あきら

小林 昭

元 国土交通省大臣官房審議官(都市生活環境担当)

現 公益財団法人都市計画協会理事

株式会社プレック研究所上席顧問

受賞理由

氏は、昭和52年(1977年)に建設省入省後、平成26年(2014年)に退職するまでの37年間にわたり、国土交通省(建設省)、香川県、都市再生機構等において公園緑地行政の発展に尽力された。公園・緑化事業調整官時代は、官民連携推進を背景に、平成13年(2001年)の都市緑地保全法改正による緑地管理機構へのNPO法人の追加、管理協定制度の導入を実現した。公園緑地・景観課長時代の平成20年(2008年)には歴史まちづくり法の制定や特別史跡平城宮跡の国営公園化に当たられ、文化財行政と連携し公園緑地行政の進展に大きく寄与した。また、平成22年(2010年)には内閣府防災と連携し国営東京臨海広域防災公園を開園させ、平成23年(2011年)の東日本大震災発生に際しては、引き続き審議官として被災地における柔軟な公園利用の推進や復興に向けた技術的指針を発出するなど、公園緑地の防災分野においても貢献した。

しばた しょうぞう

柴田 昌三

元 京都大学大学院地球環境学堂(農学研究科両任)教授

現 兵庫県立淡路景観園芸学校学長兼校長

受賞理由

氏は、都市域の激化する都市気候の緩和と劣化する生物多様性の保全に注目した緑地機能の調査研究を行い、公共空間のみならず、社寺林などの半公共空間や住宅庭園などの私有空間も含めた緑地の重要性を評価し、さらには都市周辺部との連結性も視野に入れた多くの成果をあげてきた。たとえば、街路樹の剪定が緑陰や降雨遮断の効果や生物多様性維持機能を著しく低下させている一方で管理費を圧迫していること、伝統的日本庭園の配植が暑い夏を乗り切るための工夫に満ちており都市公園のデザインにも有効であること、町家等の私有空間も鳥類の多様性を維持するうえで不可欠であること等を示した。これらの知見は都市緑地が気候緩和及び生物多様性保全の観点から評価されるべき業績である。又日本造園学会長などを歴任し我が国の公園緑地研究の推進や技術者等の養成に尽力している。

はなしろ よしひろ

花城 良廣

元 一般財団法人沖縄美ら島財団理事長

現 一般財団法人沖縄美ら島財団研究顧問

受賞理由

氏は、長年に渡って国営沖縄記念公園の管理運営に携わり、わが国の亜熱帯地域における都市緑化を推進するため、沖縄の特殊な環境において熱帯・亜熱帯性植物の緑化植物としての実用化に向けた、収集、育成、繁殖、管理に関する調査研究に尽力した。また、緑化材料や生育特性等に関する調査研究の成果をもとに、熱帯・亜熱帯地域（沖縄等）の都市緑化推進の一助となる「熱帯・亜熱帯都市緑化植物図鑑」を作成した。さらに、沖縄の植物・気象・土壌等の特殊性に鑑み、多様な環境条件の中で質の高い都市緑化の推進を図るために重要な植栽基盤整備技術の普及と向上のため、技術の体系化を行い、都市緑化の企画・調査、計画・設計、施工、管理に係る植栽基盤の技術的内容をマニュアル化した「沖縄の植栽土壌」を作成するなど功績を残した。その他、国営沖縄記念公園の基本設計や沖縄県の沿道景観及び街路樹維持等の委員会の委員等を務め、都市緑化の推進に貢献した。

はまの ちかやす

濱野 周泰

元 東京農業大学教授

現 特定非営利活動法人花と緑のまち三鷹創造協会理事長

受賞理由

氏は、東京農業大学農学部造園学科卒業後、同大学教授、同大学院農学研究科主任教授、同大学客員教授を務めてこられた。樹木学者として、造園や林苑成立の歴史的な意義と変遷を研究し、都市緑化による街づくりの実践で多大な成果をあげている。大学における研究のほか、社会資本整備検討会道路技術委員会委員(国土交通省)、造園技術検定委員(国土交通省)、文部科学省検定教科書「環境緑化材料」、「造園植栽」の作成・審査といった公職も果たしてこられた。また、日本各地の緑化推進活動に尽力され、第二次明治神宮境内総合調査植物調査主査、鶴岡八幡宮大イチョウ倒伏の再生統括監修、大手町の森、川越氷川神社、都立明治公園など多数の施設に参画されている。近年では、三鷹市市民緑化推進委員会会長、NPO法人花と緑のまち三鷹創造協会理事長も務められ出身地である三鷹に多大な貢献をされている。

(役職は、令和7年3月31日現在)